

「暑さ寒さも彼岸まで」のことわざの通り、暑かった今年の夏も彼岸を迎えた途端涼風が吹き、野山も色づいてきました。

そんな中、9月には行事が様々あって、皆さん大変ご苦労様でした。9月12日(土)に山盛苑の敬老会とコスモス祭が行われました。例年は「感謝祭」として地域の方や来賓をお呼びして一緒にお祝いをするのですが、今年は新型コロナ感染症のために、入所者さんと職員だけで屋内で行いました。その模様は広報「うぐいす」やこのホームページをご覧くださいと思いますが、玄関から会場のホールまでキバナコスモスが活けられ、さながらコスモスロード。その先では例年にも増して、多くの方が長寿のお祝いを受けられました。百寿、白寿の方をちょっと挙げてみますと、

百寿(100歳・大正9年生まれ) 4名 (S.S様、K.F様、S.Y様、S.N様)

白寿(99歳)・大正10年生まれ) 2名 (H.H様、O.M様)

です。他に米寿(88歳・昭和7年生まれ)の方10名と喜寿の方(77歳・8年生まれ)2名)、わせて18名の方です。男性6名、女性12名と長寿は女性が多いのは世間と同じです。通常歳祝いは数え年で行いますが、そのいいところは、同じ生まれた年なら誕生日は関係なく同じ年齢になるところですね。長寿者を代表してS.Yさんが立派な謝辞を述べられました。

余興はじゃんけん大会で大いに盛り上がり、その後歌手の三浦博美さんの歌と民謡日本一花ちゃんこと小野花子さんのボリュームある民謡で例年以上の盛り上がりを見せました。

9月18日には長寿のお祝い伝達式が行われました。百寿の方は総理大臣の表彰状と記念の銀杯、白寿の方は秋田市長の表彰状と記念品が伝達されました。

前後して、厚生労働省から9月15日現在の100歳以上の統計発表がありました。全国で8万450人と初めて8万人を超え、女性の最高齢者は117歳(福岡市の田中カ子さん・世界の最高齢でもある)、男性は110歳(奈良市の上田幹蔵さん)とのことです。この発表は老人福祉法が施行された1963年からされていますが、この年は153年ですから、いかにお年寄りが長生きするようになったかが分かります。ちなみに1万人を超えたのが1998年です。

秋田県でも748人と昨年より79人多く最多記録更新です。女性は大仙市の佐藤ミツさんで111歳、男性が由利本荘市の小松忠蔵の109歳です。

ちなみに今までの世界の最高齢者は1994年122歳で亡くなったフランスのカルマンさんです。もう25年記録は破られていません。福岡の田中さんにはもう5年頑張ってもらって、世界の長寿記録を打ち立ててもらいたいものですね。

今月は寿命の話ばかりになりましたが、新型コロナ感染はまだ拡大しておりますが、この半年の経過から、それほど恐れおののかなくても冷静に対応してよいものと分かってきました。しかしこれからはインフルエンザの季節にも入りますので、引き続き感染対応をよろしく願いいたします。

(10月1日の全体朝礼に出席できませんでしたので、紙上の挨拶とします)